

島根県におけるツキノワグマの生息実態調査 (Ⅳ)

－第三期 (2012～2016年度) の「特定鳥獣保護計画」のモニタリング結果－

澤田 誠吾・金森 弘樹・小宮 将大・金澤 紀幸・静野 誠子・梶 誠吾・増田 美咲・柿沼 周樹

研究の要旨

第三期 (2012～2016年度) のツキノワグマの「特定鳥獣保護計画」のモニタリング調査を実施した。本県では、この5年間に1回の大量出沒年 (2016年) を認めて、捕獲総数は554頭 (うち322頭は放獣) にも達した。捕獲個体の年齢構成は0～24歳であり、大量出沒年にはメスの高齢個体も多く捕獲された。胃内容物には、平常年 (2012年～2015年) は堅果類やアリ、植物質などの天然由来のものが多かったが、大量出沒年はカキなどの人里の誘引物が多かった。栄養状態は、大量出沒年に比べて平常年が良好であった。堅果類は、年によって豊凶を認め、凶作年に人里への出沒が多くなった。大量出沒年には、生息地である森林内の餌資源の不足によって、多くの個体が誘引物のある人里へ出沒したと考える。

関連図表

表2 2012～2016年度の捕獲区分別の捕獲数

年度	有害捕獲	錯誤捕獲		緊急避難	交通事故	放獣率 (%)	
		箱ワナ	脚くくりワナ			有害捕獲	錯誤捕獲
2012	10 (6)	28 (25)	2 (1)	1 (0)	0	60	87
2013	10 (8)	31 (29)	8 (6)	1 (0)	4	80	90
2014	48 (35)	58 (51)	15 (15)	5 (2)	2	73	90
2015	13 (9)	64 (68)	13 (3)	3 (1)	4	69	92
2016	55 (2)	168 (52)	21 (9)	0 (0)	7	4	32
合計	136 (60)	349 (225)	59 (34)	10 (3)	17		

() は捕獲後に放獣したもの 放獣率 = (放獣数 / 有害捕獲数または錯誤捕獲数) × 100 (%)

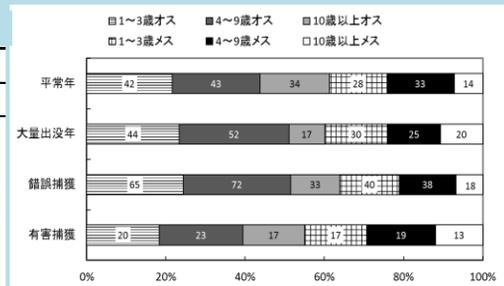


図5 大量出沒年、平常年別と捕獲区分別の性・年齢構成
グラフ内の数字はサンプル数

表5 堅果類等の豊凶

	2012年	2013	2014	2015	2016
ブナ	x	○	x	○	x
ミズナラ	◎	x	○	○	△
コナラ	◎	x	○	◎	x
シバグリ	◎	○	◎	◎	◎
クマノヅキ	△	◎	△	◎	◎
アラカシ	◎	◎	◎	◎	△

◎: 豊作; ○: 並作; △: やや凶作; x: 凶作

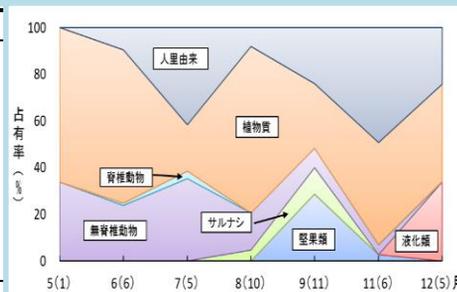


図6 平常年の胃内要物の占有率 (%)
() 内はサンプル数

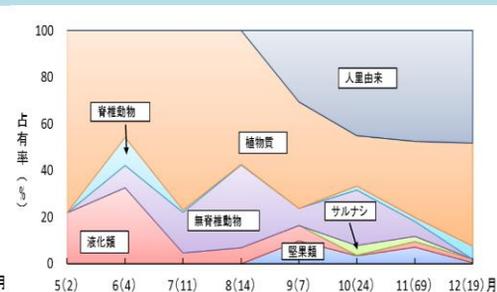


図7 大量出沒年の胃内要物の占有率 (%)
() 内はサンプル数

語句説明

特定鳥獣保護計画：「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」に基づき、都道府県知事等が定める計画で、その生息数が著しく減少したり、生息地の範囲が縮小している鳥獣に対して、特に必要がある場合に策定する計画。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科 : 鳥獣対策科
問い合わせ先 : 0854(76)3818
E-mail : chusankan@pref.shimane.lg.jp